

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272600412		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホームいこくま荘		
所在地	青森県下北郡風間浦村大字易国間字大川目17-2		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達職員は一人ひとりが理念を心に留め、利用者様の思いを尊重した愛情のある対応を心がけており、職員が笑顔で接することで、利用者様の笑顔を引き出し、安心して生活できる空間の提供を心がけています。今後も今以上に利用者様の気持ちに沿った関わりを継続していきたいと思ひます。
また、地域の方々との関係性を大切にし、地域の方々により頼りにされるような関係・環境を、以前のように作っていきたく思ひます。
職場環境面では、労働日時等、個人の細やかな希望に応じることで、ストレスの少ない環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常に目に付く場所に掲示し、共有している。また、会議で管理者と職員が話し合い、より良い実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回の広報誌作成に力を入れ、グループホームでの状況を、地域の施設でも簡単に閲覧できるように配布している。病院受診で地域の診療所を訪れる際は、施設の代表としての自覚を持ちながら挨拶等を行い、積極的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、地域住民に向けて、認知症の人の支援の方法等を伝える機会を持ちたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、行政や社会福祉協議会、ご家族様代表、地域住民が参加して運営推進会議を行い、ホームでの状況を報告して意見をいただきながら、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている他、災害時や断水時も連絡を取る機会が多く、市町村担当者と連携を図り、協力関係を築いている。コロナワクチンは声がけいただき、職員の早めの摂取を実施していただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は身体拘束の内容を理解しており、身体拘束は行わないというホームの方針を貫き、職員は共通の認識を持ってケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合はご家族様に説明を行い、同意を得る体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法に関する研修を受講しているため、内部研修で全職員が理解を深める取り組みを行っている。虐待を発見した場合に備え、対応や報告方法を全職員が理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、利用者様が制度を活用できるよう支援する体制を整えているが、全職員が制度の概要について理解するよう、行政や社会福祉協議会の協力を得て、権利擁護に関する研修会に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書等を基に、ホームの取り組みやケアの姿勢等を利用者様やご家族様等にわかりやすく説明している。また、契約改定時や退所の際も十分に説明を行っている他、退所に関して利用者様やご家族様等が不安を抱かないよう、関連機関と連携を図ったり、情報提供を行う等の支援をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に内部・外部の相談・苦情窓口を記載している。出された意見について、ミーティング等で全職員で話し合っ共有し、日々のケアに反映させている。また、普段の電話での状態報告の際等にいただいた意見等も、職員間で共有し、ケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議やユニット会議、年2回の人事考課で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。その他、気づいた際はその都度話しやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年2回の人事考課での結果を把握し、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しながら、給与水準や労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目的に年間研修計画を作成し、職員の力量や経験に応じて、外部研修等の受講の機会を設けていたが、コロナの影響で積極的にはできていない。管理者は職員との信頼関係を築き、業務に関する相談等、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者との交流や連携の必要性を認識している。関係施設との研修会等を通して交流の機会を持ち、日々のサービス向上や職員育成につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談等で要望や不安等を聞き出し、ご本人様の言葉を傾聴し、話やすい環境作りに努めている。職員間での情報交換もこまめに行い、利用者様との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同じように聞き取りの時間を十分に設け、信頼・協力関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様が必要とする事を聞き取って把握し、必要とするサービスを見極め、最も良い支援ができるよう、他機関とも連携しながら取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意思や自発的行動を大切にした自立支援に努めている。家事全般等の内容を工夫し、利用者様と一緒にできるような努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様のお互いの意向を尊重し、協力体制を大切にしている。ご家族様には電話での近況報告や行事への参加を呼びかけていたが、コロナの影響でご家族様との行事はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でのやり取りを自由に行えるように支援している他、一人ひとりに応じた馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。また、ホーム内で、職員と利用者間の馴染みの関係性を作り、居場所作りの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できない利用者様をできる利用者様が助けてあげられるよう、関わり合う関係を構築できるように支援している。また、両棟を自由に行き来でき、馴染みの関係を保てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所により退所となった利用者様も、お見舞いに行くことで関わりを持っている。退所となった後もご家族様の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様の入居前からの生活や経験等を把握している。入居後はコミュニケーションを図り、利用者様の思いを引き出すように取り組んでいる。必要に応じて、ご家族様から情報収集を行う等、本人本位の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様へ聞き取りをしたり、入居時のアセスメントから入居前の生活歴等を情報収集し、ホームで安心して生活できるよう、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が心身状態の観察をし、申し送りや必要時には連絡ノートを使用して、一人ひとりの情報共有、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様との話し合いを基に、普段の生活状況等と職員の意見も取り入れて、プランを作成している。また、状況に変化があった場合には、速やかに話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況はケース記録に記入している。変化のある場合は連絡ノートを使用したり、確実に情報共有ができるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況やご家族様の希望により、できる限りホームで過ごせるように主治医と連携を図り、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会福祉協議会のケアマネジャーや地域包括支援センターの職員等と、連携を図っている。コロナ前は消防団や婦人会等の地域住民の協力もあり、行事に参加して交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の受診状況を把握しており、かかりつけ医等を継続して受診できるように支援している。かかりつけ医や協力医療機関等との連携を図り、夜間の救急医療にも対応でき、いつでも相談等を行える体制を整えている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の生活全般を把握し、週1回の訪問看護時に利用者様の体調記録を共有、報告し、指示を得る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やご家族様等と話し合い、早期に退院できるように努めている。病院関係者との情報交換を十分に行い、退院後も統一したケアができるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のホームの対応を明確にしておき、医療関係者を含めた話し合いを行っている。また、利用者様やご家族様等の意思を尊重した最善のケアを心がけ、状況に応じて、主治医やご家族様と連携を図りながらターミナルケアを行う等、十分に話し合い、意思統一に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成している。また、利用者様の急変時に適切な判断、対応ができるよう、年1回、消防署員の指導で救急蘇生法を学んで訓練しており、実践につなげるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練、夜間想定避難訓練を行っている。災害時に備えて、非常食や水等を確保している。必要時に応じて、役場や消防に連絡し、協力を得る体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様に対して尊敬の念を持ち、声かけや介助時の対応によって自尊心を傷つけないように努めている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、利用者様の個人情報等は職員の統一した意識のもと、適切に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から意向の把握に努め、利用者様の言葉に耳を傾けて、しぐさや表情、雰囲気を感じとっており、利用者様が自分で選択することを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者様一人ひとりの生活リズムに合わせたサポートを行っており、穏やかな声かけや利用者様の思いに寄り添ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃より、職員一同が利用者様のきれいな身だしなみを心がけ、支援している。また、希望時にすぐ対応してくれる馴染みの美容室があり、利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の多くが食べることが楽しみな企画となっており、利用者様が目でも口でも喜び、食事を楽しめる内容になるよう、支援している。職員と利用者様が一緒に作り、一緒に食べて、バイキング等もあり、満足して楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取状況をチェック表で確認し、体調管理に役立てている。必要量を確保できるよう、嗜好品も取り入れて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態やご本人様の力に合わせ、モアブラシや義歯ブラシ、歯ブラシ、口腔ガーゼ等を使い分け、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせた対応を行っている。パット類については職員間で話し合い、利用者様に不快な思いをさせないよう、状況に応じた対策を行っている。排泄チェック表を用いてパターンを観察し、さりげない声がけや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、散歩やレクリエーションを行い、体操できるように支援している。水分を十分に摂取できるよう、こまめに提供したり、食事にも食物繊維を意識して取り入れている。排泄確認表や水分確認表にて管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望に応じた支援を行っている。また、職員は安全面や羞恥心に配慮した上で、適切な支援をしている。週に2~3回は入浴が行えるようにしている。また、拒否のある方にはタイミングや声がけを工夫しながら、ご本人様の希望に応じている。希望があれば、毎日対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の工夫により、夜間に良眠できるように支援している。不眠時には温かい飲み物を提供したり、ゆっくり話を傾聴し、安心して入眠できるよう、支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、受診記録を職員間で共有し、薬の目的や副作用を把握するようにしている。また、症状や状態の些細な変化も報告するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や経験、好きな事を把握しており、一人ひとりに合わせた、生きがいや楽しみが得られる日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉狩り等、気候の変化に応じたドライブの他、天候の良い日には足湯に出かけたり、各利用者様の地元をドライブし、思いの場所や懐かしい場所にも出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で金銭管理をしているが、状況に応じて、ご家族様の了解を得て、少額を利用者様に管理していただいている。施設前の自販機や通院時の買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは自由にできる。施設の電話を使ってご家族様に連絡ができ、利用者様やご家族様が安心できるように支援している。ご家族様への年賀状を送る支援を、毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間違えやすい場所には表示をしている所もある。共用空間には、季節の変化に合わせた手作りの装飾を行い、居心地良く過ごせる工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でも自由に過ごせるよう、椅子を置いたり、ご本人様に合わせた家具等の配置を工夫している。また、その時々で、気の合う利用者様同士が過ごせるよう、席順を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物を持ち込んでもらったり、ご家族様の写真を飾る等、ご本人様が安心できる、居心地の良い空間作りを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには食卓テーブルや椅子以外に、ソファを広く設置し、思い思いに過ごせるようにしている。各居室は安全性と、自立した生活を送れるように、一人ひとりに合わせた家具等の配置をしている。		